

病弱特別支援学校（準ずる教育）高等部2年ホームルーム活動 高校における「対話的な学び」の実践へ繋げる『プロのプロセス』の活用

東京都立光明学園 病弱教育部門 高等部 主任教諭 川口 尚人

【番組紹介】 プロのプロセス#1 課題の見つけ方
「プロのプロセス」は、社会で活躍するさまざまな仕事のプロが、“情報の集め方”から“分析のしかた”、“まとめた内容を”発表するテクニック”まで伝授する番組。情報活用能力のほか、社会に出たときに役に立つワークスキルがわかる。この回はシンキングツールを使って思考を深める方法を実行する内容で、思考活動、話し合い活動がスムーズにいく内容となっている。

【授業の概要】 今回は生徒会選挙へ向けて、学校をどのようにしたらよくしていけるか、最高学年になるにあたってどのような心構えでいることが大切か、ちょうど考えなければならない時期で、内容的には単発的である。時期的にはタイムリーであり、それが効果的に実践でいた原因であると考えられる。

【実践者による番組分析】

- 今回課題に適した内容の高校生向けの番組が今まではなかった。(生徒の実態に合っている。)
- 番組を見本にして議論の仕方や思考の手順を知ることができる。
- この番組に代わる教材が手に入りやすく、見ただけでイメージがつかみやすいので、導入として適している。
- ワークシートが用意されているので、それを活用できる。
- 出演者の写真があるので、発言を振り返るのに役立つ。
- 出演者が変なことを言っても大丈夫な様子を見て、自分も遠慮しないで発言できる雰囲気になる。
- 番組を見なくても理解できる生徒はいると思うので生徒の実態に合わせて必要な場面で利用すれば効果がある。

【授業の流れ】高2 ホームルーム活動

単元名 明るい学校にしよう～生徒会活動でやりたいことを考えよう～

ねらい 番組を視聴して生徒会活動ではどのようなことに気を付けたらよいかをみんなで考えることができる。

1. 本時のめあてを確認する。
2. 番組視聴プロのプロセス#1「課題の見つけ方」
学校の課題の出し方や解決策の見つけ方を考えながら視聴する。
3. 現在の学校の良い点と悪い点を付箋に書く。(個別)
それぞれができるだけたくさん考えて付箋に書く。(個別作業)
4. 付箋を持ち寄ってグループ討議。(グループ活動)
その中から特にみんなが大切だと思った問題点を話して1～2個選出す。
ロジックツリーの「問題点」に貼って→「理由」→「原因」→「対策」→「どうすればよいか」とみんなで考えていく。
5. 最後にまとまった「どうするか」を確認する。(一斉)
最後に出てきた「どうするか」を全体のまとめとしてよいかどうか、確認する。
6. まとめ
本時の感想を自由筆記で書く。時間があれば1人ずつ発表する。



【授業の工夫点】

番組の流れの確認

内容を明確にするために、出演者の写真やロジックツリーの図を貼っていき、内容確認の時間をできるだけ省いて、考えたり話し合ったりする時間を十分に確保する。

シンキングツールで見える化

良い点・悪い点を模造紙半分の大きさに用意し、付箋で貼ることで分かりやすく提示する。ワークシートともリンクしたものを用意する。

対話を深めるための多様な活動形態を取り入れ

個別でできるだけ意見を出させ、グループで意見を分類し、ロジックツリーで考えを発展させる。その通りに考えていけば自然と考えをまとめることができる。

学校放送番組の継続的な視聴

同じような形で何回か授業を行ううちに、番組視聴から情報活用能力が身に付き、気兼ねなく意見を言えるようになり、互いを尊重できるようになる。



【本実践の成果と課題】

- 番組の通りに実践することで考えや話し合いを深めることができた。
- 番組の雰囲気から自由に発言できる雰囲気を作ることができた。
- 互いの意見を尊重し合うことが出来た。
- ロジックツリーの使い方を理解できた。
- 生徒同士で決めたことで、生徒会活動への自覚ができた。
- 情報活用方法を汎化していろいろな場面で応用できるようにしていきたい。